

教育委員会定例会日程

平成30年10月23日

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 会議録署名委員の決定

4 報告事項

(1) 市議会9月定例会・決算特別委員会の概要について (資料1 教育部)

(2) 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について (資料2 教育指導課)

5 その他

平成30年度教育委員会事務の点検・評価後の状況について (資料3 教育部)

平成30年度上半期寄付採納状況について【資料配布のみ】 (資料4 教育総務課)

平成30年度上半期教育委員会職員の公務・通勤災害の状況について【資料配布のみ】
(資料5 教育総務課)

6 協議事項

(1) (仮称) おだわら子ども教育支援センターについて【非公開】

(資料6 教育指導課)

7 閉 会

市議会 9 月定例会・決算特別委員会の概要について

資料 1

平成 30 年 9 月定例会日程

第 1 日目	9 月 3 日	月	・補正予算並びにその他議案一括上程——提案説明
第 2 日目	9 月 4 日	火	(休 会) (議案関連質疑通告 締切 正午) (一般質問通告 締切 午後 3 時)
第 3 日目	9 月 5 日	水	(休 会)
第 4 日目	9 月 6 日	木	・質疑、各常任委員会付託、請願・陳情付託
第 5 日目	9 月 7 日	金	(休 会) 総務常任委員会
第 6 日目	9 月 8 日	(土)	(休 会)
第 7 日目	9 月 9 日	(日)	(休 会)
第 8 日目	9 月 10 日	月	(休 会) 厚生文教常任委員会
第 9 日目	9 月 11 日	火	(休 会) 建設経済常任委員会
第 10 日目	9 月 12 日	水	(休 会)
第 11 日目	9 月 13 日	木	(休 会) (委員長報告書検討日)
第 12 日目	9 月 14 日	金	・各常任委員長審査結果報告・採決 ・請願・陳情審査結果報告・採決 ・補正予算追加上程——提案説明、質疑 ・一般質問
第 13 日目	9 月 15 日	(土)	(休 会)
第 14 日目	9 月 16 日	(日)	(休 会)
第 15 日目	9 月 17 日	(月)	(休 会) (敬老の日)
第 16 日目	9 月 18 日	火	・一般質問 ・厚生文教常任委員会
第 17 日目	9 月 19 日	水	・一般質問
第 18 日目	9 月 20 日	木	・一般質問
第 19 日目	9 月 21 日	金	・厚生文教常任委員長審査結果報告・採決 ・請願・陳情審査結果報告・採決 ・人事案上程——提案説明、質疑、討論、採決 ・一般質問 ・決算認定案 (一般・特別・企業) 一括上程——提案説明、質疑、決算特別委員会設置、付託 ・決算特別委員会 (正副委員長互選、全体説明、書類審査・一般会計)
第 20 日目	9 月 22 日	(土)	(休 会)
第 21 日目	9 月 23 日	(日)	(休 会) (秋分の日)
第 22 日目	9 月 24 日	(月)	(休 会) (振替休日)
第 23 日目	9 月 25 日	火	(休 会) 決算特別委員会 (書類審査・一般会計)
第 24 日目	9 月 26 日	水	(休 会) 決算特別委員会 (書類審査・一般会計・特別会計・企業会計)
第 25 日目	9 月 27 日	木	(休 会) 決算特別委員会 (現地査察) (総括質疑通告 締切 午後 4 時)
第 26 日目	9 月 28 日	金	(休 会)
第 27 日目	9 月 29 日	(土)	(休 会)
第 28 日目	9 月 30 日	(日)	(休 会)
第 29 日目	10 月 1 日	月	(休 会)
第 30 日目	10 月 2 日	火	(休 会) 決算特別委員会 (総括質疑、討論、採決、とりまとめ)
第 31 日目	10 月 3 日	水	(休 会)
第 32 日目	10 月 4 日	木	(休 会) 決算特別委員会 (委員長報告検討)
第 33 日目	10 月 5 日	金	・決算特別委員長審査結果報告、質疑、討論、採決

告示 8 月 27 日 (月)

* 議会運営委員会開催予定 8 月 28 日 (火) 午前 10 時

厚生文教常任委員会（教育部・文化部）

平成30年9月10日実施

1 事件

（1）議案

- ・ 議案第69号 平成30年度小田原市一般会計補正予算（所管事項）
- ・ 陳情第138号 エアコン設置に対する陳情書

2 所管事務調査

（1）報告事項

- ・ 映画「二宮金次郎」の進捗状況について
- ・ 史跡小田原城跡保存活用計画の策定について
- ・ 広域交流施設における新たな図書施設整備に伴う本市の図書館体制等について
- ・ 平成30年度教育委員会事務の点検・評価について
- ・ 平成31年度使用教科用図書の採択について

平成30年9月18日実施

1 事件

（1）議案

- ・ 議案第79号 平成30年度小田原市一般会計補正予算
- ・ 陳情第138号 エアコン設置に対する陳情書

平成30年 8 月 23日

陳情第138号

エアコン設置に対する陳情書

エアコン設置に対する陳情書

【陳情趣旨】

私たちは市内に通う小学生を持つ母親です。この夏、熱中症で死者が出るほどの酷暑になってしまいました。小学生が重い荷物を持ったまま、校門の前で途方に暮れており、門を出てすぐにアスファルトの地面にへたりこむ姿も見ました。

神奈川県では普通教室のエアコン設置率が約80%と知り、なんとか私たちの暮らす小田原市にもつけてもらえないだろうか、と平成30年7月19日頃より署名を集め始めたところ、現在1万6千筆近くが集まりました。その署名は小田原市、神奈川県教育委員会、文部科学省に提出し、今全国的にエアコン設置に向けて動き始めていると感じています。小田原市長も早くに、前向き検討をしてくださる意向を示してくださり感謝いたします。

しかしながら、今年は6月初旬に30度を超えた日もあり、夏休みに入る前から酷暑と呼ばれる日が続いておりました。また学校の教員の先生にとっても、労働環境として苛酷であると感じております。来年はさらに厳しい気温になる可能性は十分にあるかと思っておりますので、エアコン設置までの期間、代替となる対応策の検討をお願いしたく下記について陳情致します。

【陳情項目】

エアコンの早期設置及び設置までの児童への配慮と対応策の検討

平成30年8月23日

小田原市議会議長

加藤 仁司 様

提出者

小田原市南鴨宮2-12-14

岩瀬 祐子 ㊞

小田原市荻窪401-11

加茂 圭子 ㊞

質問順 1 25番 大川 裕

- 1 学校施設における空調設備について
 - (1) 本市の現状について
 - (2) 今後の展開について

質問順 9 9番 楊 隆子

- 3 美しい日本語を守り育てていくことについて
 - (1) 学校における日本語の教育について
 - (2) 心を育てる童謡の活用について

質問順10 2番 鈴木敦子

- 1 小田原市における熱中症対策について
 - (2) 保幼小中学生に対する熱中症予防対策について
 - (3) 学校における空調設備設置に係る環境への配慮及び省エネルギーの観点を取り入れることについて

質問順11 4番 安藤孝雄

- 3 ICT化の進展とそれに伴う子どもの心身の健康と学力等への影響について
 - (1) 健康診断等の推移から見た児童生徒の心身の状態の現状と変化について
 - (2) ICT化が学力に与える影響について
 - (3) 過度のSNS利用等によるプライバシー侵害や事件化などへのリスク回避について

質問順13 13番 佐々木ナオミ

- 2 聴覚障がい者の支援について
 - (1) 現状の取組状況について
 - (2) 今後の取組について

質問順15 19番 奥山孝二郎

- 1 本市における学区と自治会との整合等について
 - (3) 学区審議会について
 - (4) 人口減少時代における学校配置等について

質問順18 18番 田中利恵子

- 1 (1) 市内小中学校の普通教室などへのエアコン設置をすることについて

質問順20 14番 鈴木美伸

- 1 子どもを犯罪から守るための取組について
 - (1) 本市の子どもを犯罪から守る取組状況等について

* 一般質問(教育部)

議員	項目	答弁	質問要旨	答弁概要
大川 裕	学校施設における空調設備について	市長	本市の学校施設の空調設備と暑さ対策の現状について伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、全小・中学校の保健室などの管理諸室については、空調設備の設置が完了している。 ・また、「文部科学省の公立学校施設の空調（冷房）設備設置状況調査」では、平成29年4月1日現在、音楽室、パソコン教室などの特別教室については、小学校で7.7%、中学校で5.9%の教室に設置しているが、普通教室には設置していない。 ・普通教室の暑さ対策としては、平成23年度から天井扇風機の設置をすすめ、現在、すべての普通教室に設置が完了し、教室内の空気の循環を行っている。 ・また、児童生徒には衣服による温度調節やこまめな水分補給、首を濡れたハンカチ等で冷却するなどの指導をしている。
		市長	今後、学校への空調設備の整備をどのように展開していくのか伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、来年夏の稼働に向けて、庁内各部署が連携して、発注方法や、財源、スケジュール、事務手続き等について検討を進めてきたところである。 ・今後、事業者選定委員会を設置して募集要項等を決定し、プロポーザルを経て、11月末までに事業者を選定・仮契約の後、市議会12月定例会において本契約締結の議案を提案したいと考えている。 ・設置工事については、土曜日、日曜日、祝日、春休み期間などの学校休業日のほか、必要に応じて平日の授業に影響のない時間帯にも行う予定である。
楊 隆子	学校における日本語の教育について	教育長	学校における日本語の教育の取組について伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき、学校では、国語科はもとより、各教科その他の教育活動全体において、日本語の力を育成している。 ・児童生徒は、日本語の力を育成する中核的な教科である国語科で物語や説明的な文章、詩、古文や漢文などの様々な教材を通して、言語感覚を養い、語彙を豊かにするとともに、言葉の働きや正しい言葉遣いについて学んでいる。 ・また、学校全体の言語環境を整えることも大切であることから、教職員が、温かく正しい言葉遣いをすることや集団の中で子供同士が安心して話ができるような好ましい人間関係を築けるように努めている。
	心を育てる童謡の活用について	教育長	教育現場では、童謡をどのように扱っているのか伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの豊かな感性をはぐくむため、童謡を扱っていくことは価値あるものと考えている。 ・音楽科の指導においては、学習指導要領に、共通教材として文部省唱歌やわらべうたとともに、童謡が示されており授業で扱っている。 ・幼稚園や小学校では「めだかのがっこう」や「七つの子」などを歌い、また、季節と関わらせて「たなばたさま」や「お正月」などを歌っている。 ・小田原ゆかりの北原白秋については、5年生の音楽科の教科書に「待ちぼうけ」「この道」が掲載されており、授業で扱っている。
鈴木 敦子	保幼小中学生に対する熱中症予防対策について	教育長	小中学校等における熱中症予防対策の取組状況について伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会では例年6月ごろ、環境省の「熱中症環境保健マニュアル」に基づく指導をしているが、今年の夏は記録的高温が続いたことから、文部科学省から熱中症予防対策等について重ねて通知があったため、その都度学校・園へ指導を行った。 ・学校・園では、児童生徒の健康観察を行い、心身に不調を感じたら申し出て休むよう習慣付けること、無理をさせないこと、屋内外にかかわらず、こまめに水分（スポーツドリンク等）を補給し適宜休憩をいれること、衣服による温度調整や首を冷却すること、などを行っている。 ・併せて、屋外活動や体育的行事についても、計画を適宜縮減するなど状況に応じて行っている。
	学校における空調設備設置に係る環境への配慮及び省エネルギーの観点を取り入れることについて	市長	空調設備設置については、どのような考え方で進めてきたのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本市は、海、川、田園など豊かな自然環境に恵まれ、夏も比較的のびやかなことから、普通教室には、まずは天井扇風機を整備し、空調設備は管理諸室や特別教室を優先して整備をすすめてきた。 ・特に、体調を崩した児童・生徒が休養する保健室や、夏休み期間中も教職員が執務する職員室などの管理諸室への整備は優先的に進め、平成25年度までですべて完了している。 ・また、精密機器を保護する必要のあるパソコン教室や、授業中の音が近隣に迷惑にならないように窓を閉め切る必要のある音楽室などの特別教室には計画的な整備を進めている。 ・普通教室への空調設備については、これまで先進都市の導入事例を参考にしながら検討してきたところである。

* 一般質問(教育部)

議員	項目	答弁	質問要旨	答弁概要
鈴木敦子	学校における空調設備設置に 係る環境への観点を取り入れること	教育長	空調設備の設置にあたり、消費エネルギー量の削減や環境負荷の低減はどのように考えているのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教室への空調設備の設置は、相応の消費エネルギーの増大と環境負荷が発生することは認識している。 ・こうした課題に対応するため、本来は、空調設備の設置に併せて、教室の高断熱化なども行うことが望ましいと考えるが、工事が大規模となり、費用や工期の面で現実的には難しい。 ・このため、現在は、空調設備を省エネルギー型の機器とすることや適正な温度で使用することにより、消費エネルギー量の削減に努めている。 ・また、一部の学校の屋上には太陽光発電パネルを設置するなど、環境負荷の低減にも努めている。 ・今後も、できるだけ消費エネルギー量の削減や環境負荷の低減に配慮してまいりたい。
		教育長	ICT化の進展が、本市の児童生徒の健康診断結果や全国学力・学習状況調査結果に何か影響をおよぼしているのか伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断結果については、4番安藤議員ご指摘の学校保健統計調査で実施している裸眼視力についての調査を本市では行っていないため、影響の有無を判断することはできない。 ・全国学力・学習状況調査では、1日当たり2時間以上スマートフォン等でゲームやメールなどを行う児童生徒の割合が、本市では国・県の平均に比べて多い、という結果が出ている。
安藤孝雄	健康診断等の状態の推移から見た児童生徒の心	教育長	文部科学省の学校保健統計調査にみられる裸眼視力の低下傾向をどうとらえるのか伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年12月に、平成29年度の学校保健統計調査の速報値で裸眼視力が1.0未満の児童生徒の割合が過去最多となった際、文部科学省が「スマートフォンなどの普及で画面を近くで見る機会が増えた影響もあると考えられる」との見解を示していることは、報道で承知している。 ・多くの専門家も同様の意見を発表しており、本市としても文部科学省の見解は妥当であると考えている。
		教育長	学校現場におけるICT化の利点と課題を、教育委員会はどのように認識し対応しているか伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場においては、必要に応じてコンピュータや電子黒板などを活用した授業を行っており、児童生徒の興味・関心を高めることや、授業内容の理解を深めることにつながっていると認識している。 ・一方、全国学力・学習状況調査における文部科学省の分析結果によると、ゲームやメール・インターネットをする時間が短い児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られることから、スマートフォン等の長時間の使用が課題であると、とらえている。 ・教育委員会では、指導主事が学校を訪問し、本市の傾向や課題等について伝えており、各学校では、スマートフォン等の適切な利用について、児童生徒や家庭への啓発を図っている。
	ICT化が学力に与える影響について	教育長	児童生徒の携帯電話やスマートフォンの所持率について伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会では、年度当初に、児童生徒の携帯電話やスマートフォンの所持率について調査しており、平成30年度の所持率は、小学生は37%、中学生は73%である。 ・なお、平成20年度の本調査では、小学生は16%、中学生は56%であることから、児童生徒の所持率は、ここ10年で大きく増えている。
過度のSNS利用等によるプライバシー侵害や事件化などへのリスク回避について	教育長	小・中学校における情報モラルに関する指導の現状について伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が情報化社会の危険な一面を理解し、様々な情報に対し適切に対応しながらよりよく生きていくためにも、情報モラルについて指導することは重要である。 ・具体的には、小学校では、道徳科や社会科の「情報化した社会」に関する学習において、中学校では、道徳の時間や技術科のプログラミングに関する学習やコンピュータの基本的な操作とあわせて、情報モラルについて扱っている。 ・また、教科の学習以外にも、外部から講師を招いて携帯電話安全教室を開催するなど、情報の正しい取扱いや伝え方について指導している。 	

* 一般質問(教育部)

議員	項目	答弁	質問要旨	答弁概要
佐々木 ナオミ	聴覚障がい者の支援について	教育長	学校における手話に触れる機会について伺う。	<ul style="list-style-type: none"> 手話に関する取組は学校によって様々である。 小学校では、3年生の国語科の教科書に、手話を取り上げた教材があり、手話について触れる機会がある。 また、総合的な学習の時間で、福祉をテーマに取り組むクラスが手話について調べ、その内容について手話を交えながら発表している事例もある。 中学校では、英語科や音楽科、総合的な学習の時間で、手話を取り入れた学習を行う学校もある。
		教育長	学校における聴覚障がい者支援の今後の取組について伺う。	<ul style="list-style-type: none"> 学校においては、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動、また、各教科等で行われる人権教育や道徳教育等、様々な場面で、手話を含めた様々な障がい者の支援について、理解が深まるよう取り組んでいる。 今後もこれまで同様に取り組むことは大切であり、様々な情報等については、学校に周知してまいりたい。
奥山 孝二郎	学区審議会について	教育長	学区審議会は、いつ、誰が、どのような形で設置するのか伺う。	<ul style="list-style-type: none"> 学区審議会は、教育委員会が通学区域の設定又は変更の必要があると認めた場合に設置する附属機関であり、教育委員会の諮問に応じて調査審議し、その結果を報告し、必要と認める事項について意見を具申しただいている。 委員の構成は、公募による者、市立小学校及び中学校の校長代表、PTA代表、住民組織の代表、学識経験者及び教育委員会が必要と認める者としている。
		教育長	ここ数年の学区審議会の主な審議内容とその理由を問う。	<ul style="list-style-type: none"> 学区審議会において審議した内容では、宅地造成等に伴う地番・枝番の変更により、学校を指定する必要がある場合が最も多い。 それ以外では、三の丸小学校の通学区域の指定など、学校の新設に伴うものや、片浦中学校の閉校に伴う通学区域の変更、また、学校の大規模化解消のため、町田小学校の通学区域を白山中学校から白鷗中学校に変更することなどについて審議いただいた。 直近では、地元自治会からの要望を受け、平成26年11月に市内成田の一部番地にかかる通学区域の変更について審議いただいている。
	人口減少時代における学校配置等について	教育長	人口減少が進む中、今後の学校配置をどのように考えているのか伺う。	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省が示す「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、2つ以上の学年の児童生徒を1つに編成した学級である、いわゆる複式学級が存在する規模となった場合には、適正規模に近づけることを速やかに検討する必要があるとしている。 本市の児童生徒数の推計では、全市的に年々児童生徒数は減少しているものの、複式学級を設ける必要がある学校は今のところ見込まれない。 学校配置については、地域コミュニティの核である学校、とりわけ小学校の役割等も踏まえて総合的に考えていくべきものであり、当面は特別の対策を講ずる考えはない。
田中 利恵子	市内小中学校の普通教室などへのエアコン設置をすることについて	市長	空調設備を設置することを決めた理由について伺う。	<ul style="list-style-type: none"> 空調設備の設置については、これまで先進都市の事例も参考にしながら検討してきたところであるが、今年の夏は、全国的に連日35℃以上となる猛暑日が続き、毎日のように「命に関わる危険な暑さ」「ためらわずにエアコンを」という言葉がニュースとなった。 こうした災害級の暑さが、今年だけの異常気象ではなく、来年以降も懸念されることから、来年の夏には空調設備を稼働しなければ、子どもたちの命に関わると決断したものである。

* 一般質問(教育部)

議員	項目	答弁	質問要旨	答弁概要
田中 利恵子	市内小中学校の普通教室などへのエアコン設置をすることについて	教育長	この夏の熱中症予防対策の取組状況について伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校では、環境省の「熱中症環境保健マニュアル」に基づく熱中症予防対策に取り組んでいる。 ・具体的には、児童生徒の健康観察を特に丁寧に行うこと、屋内外にかかわらず、こまめに水分を補給し、適宜休憩をいれること、衣服による温度調整や首を冷却することなどのほか、屋外活動や体育的行事の実施に当たり、計画の見直しや縮減を状況に応じて行っている。
		市長	学校施設環境改善交付金の補助率の引き上げ等の見直しを国に求めることについて、市の考えを伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも国に対しては、神奈川県市長会や全国都市教育長協議会などを通じて、国庫補助に係る財源確保や補助金の見直し・拡充などについて要望を行ってきたところである。 ・今後も、様々な機会を通じて補助率の引き上げ等を働きかけてまいりたい。
鈴木 美伸	本市の子ども状況等を犯罪から守る取組	教育長	児童生徒の犯罪被害防止について、小中学校ではどのように取り組んでいるのかを伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害防止を含む安全教育は、教育課程上、特別活動の指導内容に位置付けられており、身の回りの危険を回避し、安全に行動できる能力や態度の育成を目指し、児童生徒の発達の段階や適切な時期を考慮して学級活動や学校行事において指導している。 ・具体的には、誘拐被害防止のための警察と連携したロールプレイング型防犯教室やインターネットトラブルや詐欺被害防止のためのケータイ・スマホ教室の開催のほか、総合的な学習とも関連を図り防犯安全マップを作成するなどの取組がある。 ・また、各小学校では、年度初めの登下校指導を強化し、犯罪被害防止のための指導に努めている。

決算特別委員会総括質疑（教育部）

質疑順 1 誠風 神戸秀典委員

- 1 平成29年度小田原市一般会計歳入歳出決算における委員報酬等について
(2) 非常勤特別職職員の選出について

質疑順 2 誠風 浅野彰太委員

- 1 (款) 10教育費 (項) 2小学校費 (目) 1学校管理費
(1) 小学校教育環境整備経費の学校施設維持・管理事業について

質疑順 10 創政会 木村正彦委員

- 3 (1) (款) 10教育費 (項) 3中学校費 (目) 2教育振興費のうち、部活動活性化事業について

質疑順 11 志民の会 安野裕子委員

- 3 (1) (款) 10教育費 (項) 2小学校費 (目) 1学校管理費、小学校教育環境整備経費のうち、外壁改修等工事請負費及び(款) 10教育費 (項) 3中学校費 (目) 1学校管理費、中学校教育環境整備経費のうち、外壁改修等工事請負費について

* 決算特別委員会総括質疑(教育部)

議員	項目	答弁	質問要旨	答弁概要
神戸 秀典	非常勤特別職職員の選出について	市長	教育委員の構成について、新しい視点を取り入れていくことも必要だと思うが、今後、委員構成を見直す考えはないのか伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員の選出に当たっては、広く社会の常識や住民ニーズを教育行政に適切に反映させるため、幅広い経験や知見を有する方に参画いただくことが必要である。 ・このため、これまで、文化関係者、幼児教育保育関係者、法律家などさまざまな方を任命してきたところである。 ・現在の4人の教育委員の構成は、義務教育学校の教員経験者が1人、大学教授が1人、医師が1人、そして福祉に知見を有する方が1人で、そのうちの1人が保護者であり、教育行政を進めていく上で必要なバランスに配慮した任命であると考えている。 ・今後もそのときどきの教育を取り巻く状況を勘案しながら任命していきたい。
浅野 彰太	小学校の環境整備に維持・管理費について	教育部長	学校施設の防犯カメラを、より解像度の高い防犯カメラに更新すべきではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在設置してある防犯カメラは、中学校は平成24年度、小学校は平成25年度に設置したものであり、当時としては一般的な解像度である。 ・既設の防犯カメラは特に故障もなく、現時点では更新の予定はないが、更新する際には、防犯カメラの性能等は、その時点で改めて適切に判断してまいりたい。
木村 正彦	(目) 2 教育振興費のうち、3 部活動学校活性化事業について	教育部長	学校からの要望に沿った部活動地域指導者の配置がされているのかを伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度までは、各中学校長から申請のあった部活動地域指導者の人数が予算の配置人数を超えていたため、要望にこたえられない学校もあった。 ・このため、平成29年度から予算を増額し、学校の要望どおり、部活動地域指導者を配置できるようにした。
		教育部長	顧問と部活動地域指導者の連携がどのようにされているのかを伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問と部活動地域指導者の間では、指導方針を共有した上で、大会日程や生徒の実情に合わせた指導内容、指導計画などについての情報交換や調整を行うことで連携を図っている。
		教育部長	部活動地域指導者に対する謝礼金の見直しについて伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の部活動地域指導者に対する謝礼金額は、県内の各市町村と比較すると低額であると認識している。 ・今後、謝礼金額の妥当性について、研究してまいりたい。
安野 裕子	1 (款) 教育環境整備(整備経費)のうち、2 外壁改修等工事(学校管理費)について	市長	学校施設整備短期計画に位置付けた工事の実施状況について伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・短期計画は、平成26年度から平成28年度までの3年間で終了している。その計画178件に対し、実施82件(46%)で、実施できなかった件数は96件であった。 ・平成29年度は、学校要望を踏まえて、改めて単年度の工事計画として練り直した94件に対し、実施42件(45%)で、52件が未実施となっている。
		市長	学校施設の改修にスポーツ振興・教育環境改善基金を充当した累計額を伺う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の改修に、スポーツ振興・教育環境改善基金を充当した累計額について質問があった。 ・平成28年度から平成29年度までに充当した金額は、累計3億2,160万円余である。

平成30年度 全国学力・学習状況調査 小田原市の結果について

小田原市教育委員会

目 次

1 はじめに

2 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 調査の実施日および調査の対象
- (4) 調査の内容
- (5) 調査結果の見方
- (6) 本市の基本的な考え

3 各教科の平均正答率

- (1) 平成30年度 各教科の平均正答率一覧

4 調査結果のポイント

- (1) 主な成果について
- (2) 主な課題について
- (3) 児童生徒質問紙と学力との相関について



1 はじめに

平成30年4月に実施された「平成30年度全国学力・学習状況調査」の本市の調査結果の概要についてお知らせします。本市の調査結果及び課題等を公表することにより、学校・家庭・地域がより一層の連携し、本調査から見える児童生徒の学力や学習状況の改善に努めていきたいと考えています。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、結果については、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮して取り扱う必要があります。従って、本内容をご活用の際にはこの趣旨を十分ご理解いただき、適切な取扱いをされますようお願いいたします。

2 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の方式

悉皆調査

参考	年度	調査方式	調査科目
	平成19～21年度	悉皆調査	国語、算数・数学
	平成22年度	抽出調査	国語、算数・数学
	平成24年度	抽出調査	国語、算数・数学、理科
	平成25・26年度	悉皆調査	国語、算数・数学
	平成27年度	悉皆調査	国語、算数・数学、理科
	平成28・29年度	悉皆調査	国語、算数・数学
	平成30年度	悉皆調査	国語、算数・数学、理科

※ 平成23年度は東日本大震災のため予定していた抽出調査を中止

(3) 調査の実施日および調査の対象

平成30年4月17日（火）

- ・小学校第6学年（市内25校、約1,500名）
- ・中学校第3学年（市内11校、約1,600名）

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査

- ・国語A、算数・数学A（主として「知識」に関する問題）
- ・国語B、算数・数学B（主として「活用」に関する問題）
- ・理科（主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に）

② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(5) 調査結果の見方

本調査の結果で示されている平均正答率については、文部科学省の考え方に準じて整理している。

(参考)

各都道府県（公立）の状況については、平均正答率を見ると、平成29年度同様、ほとんどの都道府県が**平均正答率の±5%の範囲内にあり、大きな差は見られない。**

出典：平成30年度全国学力・学習状況調査 報告書(平成30年7月 文部科学省 国立教育政策研究所)

(6) 本市の基本的な考え

小田原市教育委員会では、本調査の結果について次のような考えを基本としている。

本調査で測定できるのは「学力の特定の一部」であり、地域性や家庭環境等による影響も受けるものと認識しているが、調査問題は、学習指導要領の目標・内容等に基づいて作成されたものであり、その結果は、児童生徒の学力の一側面を示す客観的な資料である。

3 各教科の平均正答率

(1) 平成30年度 各教科の平均正答率一覧（単位は%）

	教科	小田原市	神奈川県	全国
小学校	国語A	65	70	70.7
	国語B	51	54	54.7
	算数A	59	64	63.5
	算数B	48	52	51.5
	理科	58	60	60.3
中学校	国語A	75	76	76.1
	国語B	60	62	61.2
	数学A	63	66	66.1
	数学B	45	48	46.9
	理科	63	66	66.1

※平成29年度調査より、市や県の正答率は整数表示となった。

○小学校では国語Aを除くすべての教科において、また、中学校ではすべての教科において「全国平均正答率±5%」の範囲内にあり、学力は、「全国と大きな差はない」状況である。

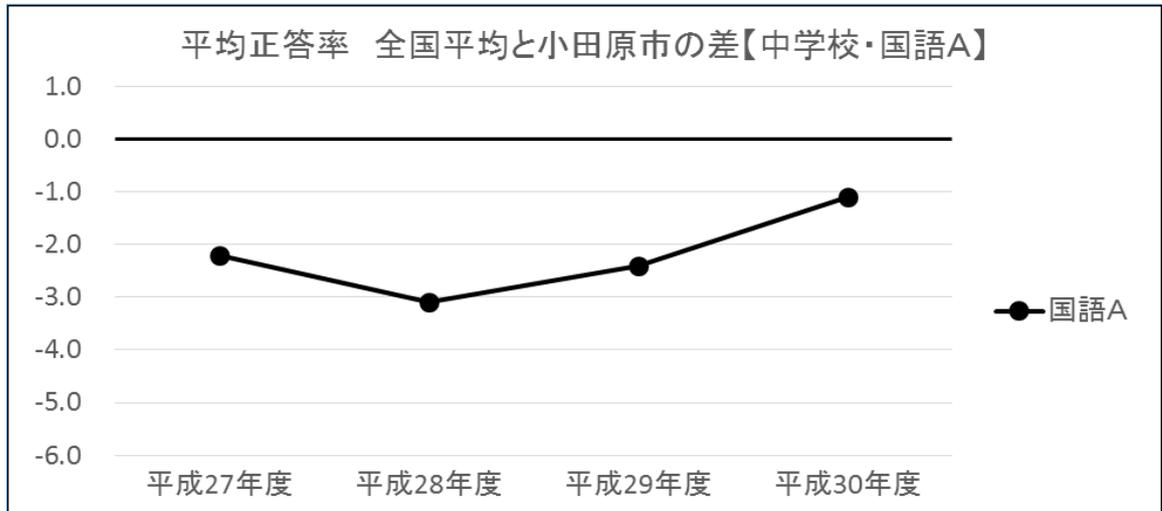
小学校は国語・算数ともに、また、中学校は数学のB問題（主に活用）の方がA問題（主に知識）と比べて全国平均に近く、昨年に引き続き、児童生徒の思考力を伸ばす授業改善の成果であると考えられる。

また、小学校は特に、国語、算数ともにA問題（主に知識）に課題がある。中学校では、国語A問題（主に知識）は、全国平均に近付き大きく改善されたが、数学A問題（主に知識）に課題がある。小・中学校ともに、基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身につけていくことが大切である。

4 調査結果のポイント

(1) 主な成果について

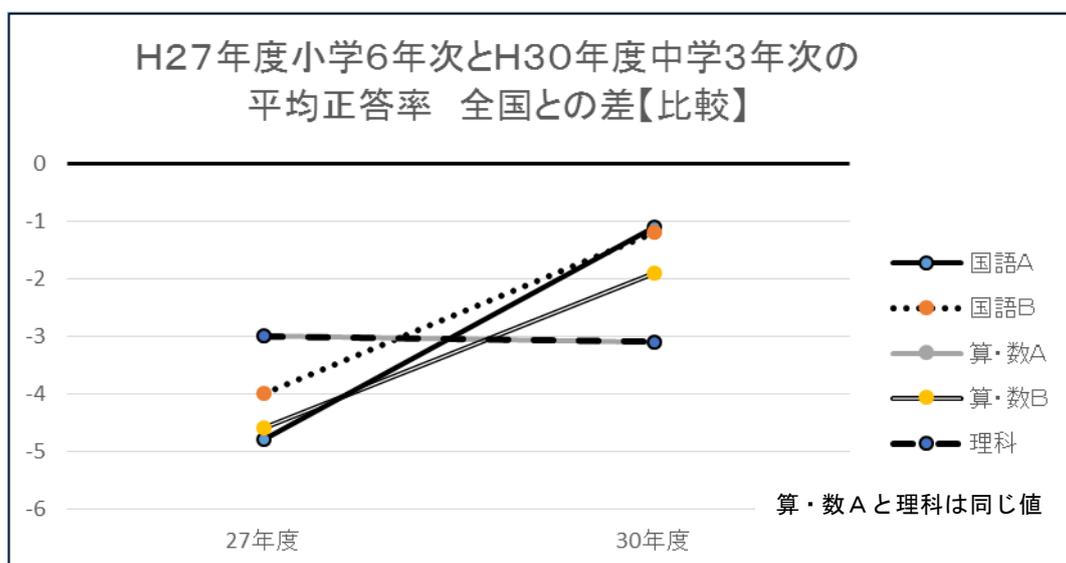
【成果1】 中学校の国語A問題（主に知識）の平均正答率が大きく改善



○以前から課題の一つでもあった国語A問題（基本的・基礎的な知識・技能が身についているかどうかをみる問題）だが、中学校において、平成28年度の中学校3年生の結果と今年度を比較すると、全国平均-3.1ポイントから-1.1ポイントとなり、全国平均との差が2ポイント縮まり、大きく向上している。

2年連続で、中学3年生の国語A問題において平均正答率の向上が見られた。各学校では、自校の全国学力・学習状況調査の分析をもとに、本市の重点目標でもある「基礎学力の向上」に向けた取組が行われている。家庭学習や朝の時間、また、授業の始めの時間などに、漢字や語句に係わる課題に計画的・継続的に取り組むなど、指導の工夫・改善の成果が現れている。

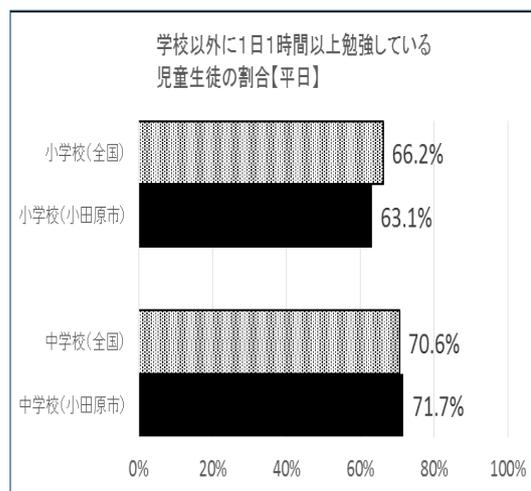
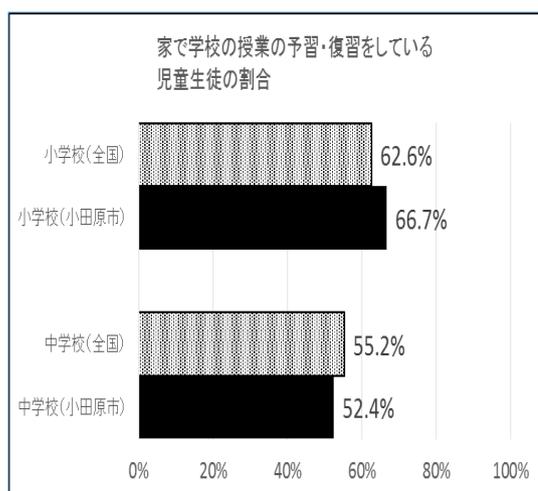
【成果2】 平成30年度の中学3年生は、3年間で平均正答率が向上



○平成30年度の中学校3年生の結果を、平成27年度の小学校6年生の結果と比較し、同じ集団の3年後の変化を見ると、全国平均との差が-3ポイント~-5ポイントあったものが、3ポイント~4ポイント程度向上している。

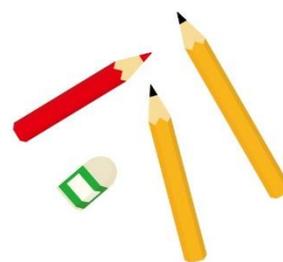
平成26年度の小学6年生と平成29年度の中学3年生の比較に続き、3年連続で中学3年生において平均正答率の向上が見られた。今年度も、各学校で行っている指導方法等に関する研究や各中学校区を単位に行っている小中合同の研究会での取組の積み重ねが成果として現れている。

【成果3】 家庭での時間の使い方の一部が改善



○小学校の児童質問紙では、「家で学校の授業の予習・復習をしている割合」の質問で、「している、どちらかと言えば、している」と肯定的に解答した児童の割合が、全国平均を4.1ポイント上回っている。また、中学校の生徒質問紙では、「学校以外に1日1時間以上勉強している生徒の割合」が、昨年から3ポイント増加し、全国平均を1.1ポイント上回った。

本市の課題でもあった、「家庭での時間の使い方」の一部に改善がみられた。少しずつではあるが、児童生徒の時間の使い方に変化があったことが現れている。今後も家庭への啓発に努めていきたい。



(2) 主な課題について

【課題1】漢字の定着

【小学校 国語A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
【文の中で漢字を使う】 「 <u>せい</u> 造」	68.8	73.4
【文の中で漢字を使う】 「 <u>せつ</u> 備」	72.1	82.2
【文の中で漢字を使う】 「 <u>しょう</u> 毒」	73.1	82.2
【文の中で漢字を使う】 「 <u>かん</u> 理」	56.9	65.0
【文の中で漢字を使う】 「 <u>せつ</u> 極的」	38.3	51.4
平 均	61.8	70.8

【中学校 国語A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
【漢字を書く】 「ひもで <u>たば</u> ねる」	72.3	79.0
【漢字を書く】 「 <u>まく</u> が上がる」	69.1	72.9
【漢字を書く】 「 <u>ゆる</u> す」	67.3	71.4
【漢字を読む】 「 <u>模型</u> を作る」	94.6	95.7
【漢字を読む】 「水が <u>凍</u> る」	97.1	97.8
【漢字を読む】 「技を <u>磨</u> く」	97.8	98.1
平 均	83.0	85.8

○小中学校において、漢字を文の中で正しく使ったり、文脈に即して漢字を正しく書いたりすることについて、全国平均を下回っている。

漢字に関しては、昨年度までと同様「漢字を書き、文や文章の中で使うこと」に課題が見られた。漢字は日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが大切であり、ノートに何度も書くだけでなく、前後に用いられている言葉や文脈に合った漢字を書くなどの学習の積み重ねが必要である。

【課題2】算数・数学の知識・技能の定着

【小学校 算数A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
針金0.4mと、0.4mの重さ60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	55.7	66.7
分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める	53.1	58.5
空間の中にあるものの位置を正しく書く	66.4	73.5
200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ	47.1	52.9
示された事柄が両方に当てはまるグラフを選ぶ	55.8	63.6
平 均	55.6	63.0

○小学校では、得意・苦手といった分野は見られないが、全般的に全国平均を下回っている。

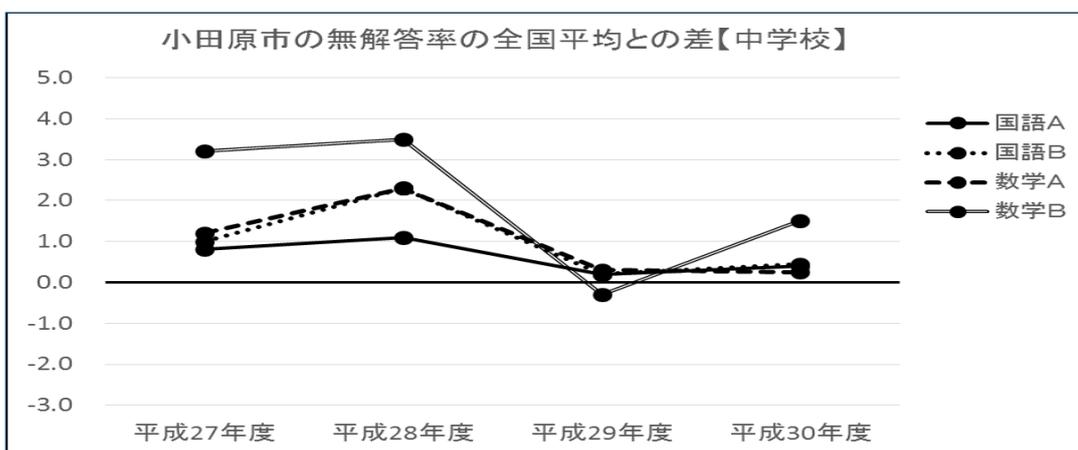
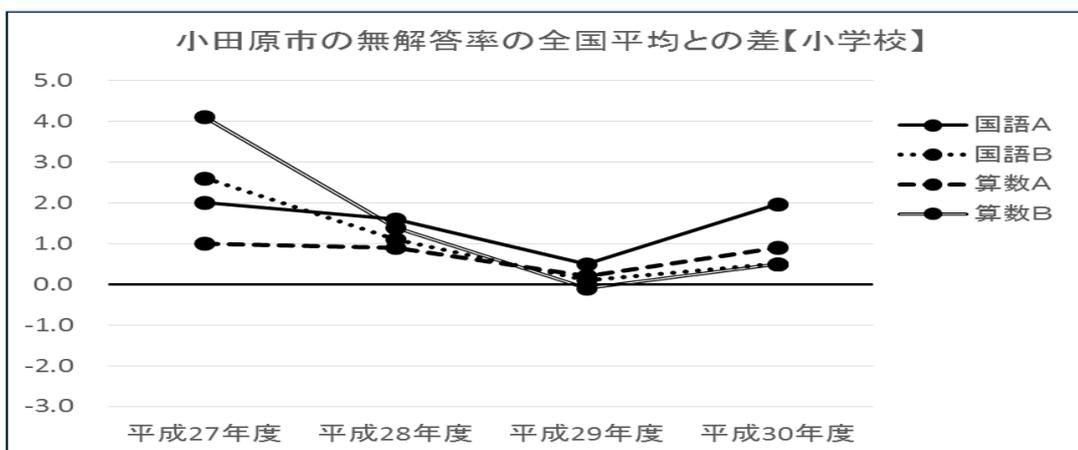
【中学校 数学A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
生徒35人の靴をサイズごとに調べ、最頻値が25.5cmだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ	64.8	68.4
反復横とびの記録の中央値を求める	69.0	74.0
1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	31.3	40.2
大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める	69.2	71.3
平 均	58.6	63.5

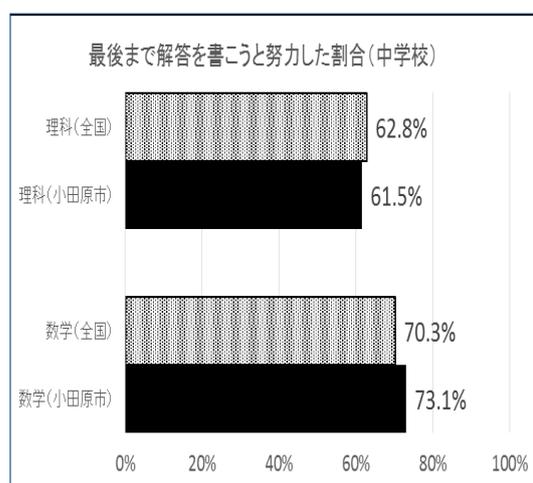
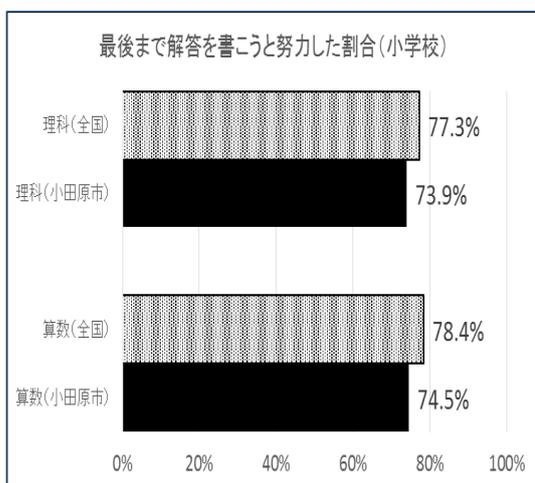
○中学校では、与えられた資料を読み取る「資料の活用」の問題の平均正答率が、全国平均を下回っている。

数量や図形などについての、基礎的・基本的な概念や性質などをしっかり理解し、日常生活の様々な場面で、数学的に問題を解決するための技能を身につけることが重要である。そのためにも、用語や記号の意味やよさが分かるようにするとともに、適切に使えることが大切である。既に学んだ内容を定着させるためにも、繰り返し問題に挑戦するなど取組の工夫が必要である。

【課題3】無解答率が増加



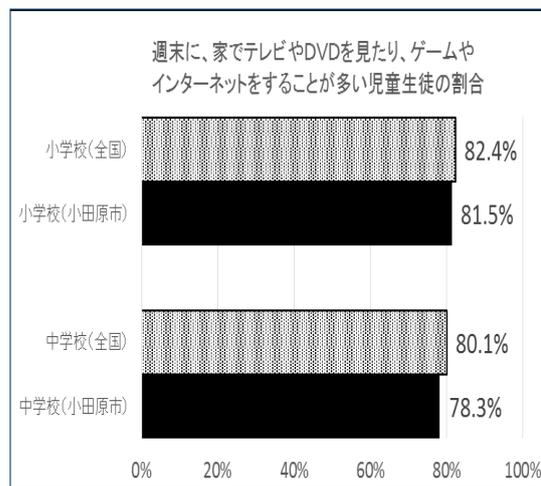
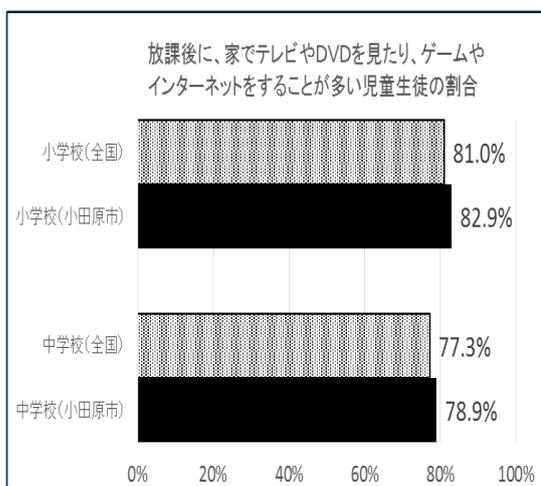
○小中学校とも、すべての教科で無解答率が、全国平均を上回っている。



○児童生徒質問紙において、「最後まで解答を書こうと努力したか」という質問に対し「努力した」と解答した割合が、中学校の数学を除き全国平均を下回っている。

昨年度、大きく改善し全国平均並みとなった無回答率であるが、今年度、再び全国平均との差が広がった。それとともに、児童生徒質問紙においても、最後まで解答を書こうと努力した児童生徒の割合が、中学校の数学を除き全国平均を下回っている。日々の生活や学習の様々な場面において、最後まであきらめることなく、粘り強く課題に取り組むことや、自分なりの考えをもつことの大切さを伝えていくことはたいへん重要である。

【課題4】 余暇の時間の過ごし方



○児童生徒質問紙の、複数回答が可能な家庭での時間の使い方についての質問において、「放課後や週末に家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答した児童生徒の割合が最も多い。

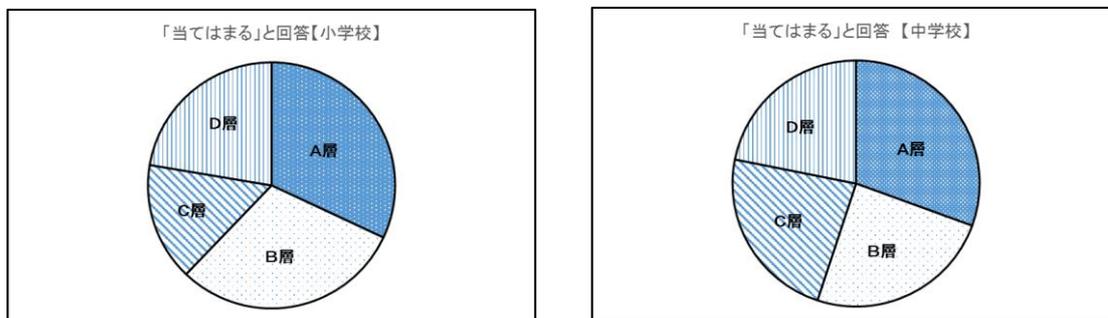
家庭で過ごす時間の中で、多くの児童生徒がゲームやインターネットを行っていることがうかがえる。これは全国平均と同様の傾向であるが、様々な電子機器等が児童生徒にとって、とても身近なものであることが分かる。各家庭において、ゲームやインターネット等を使う時間を決めるなど、子どもたちの生活リズムを整え、学習習慣を身につけるための働きかけが大切である。

(3) 児童生徒質問紙と学力との相関について

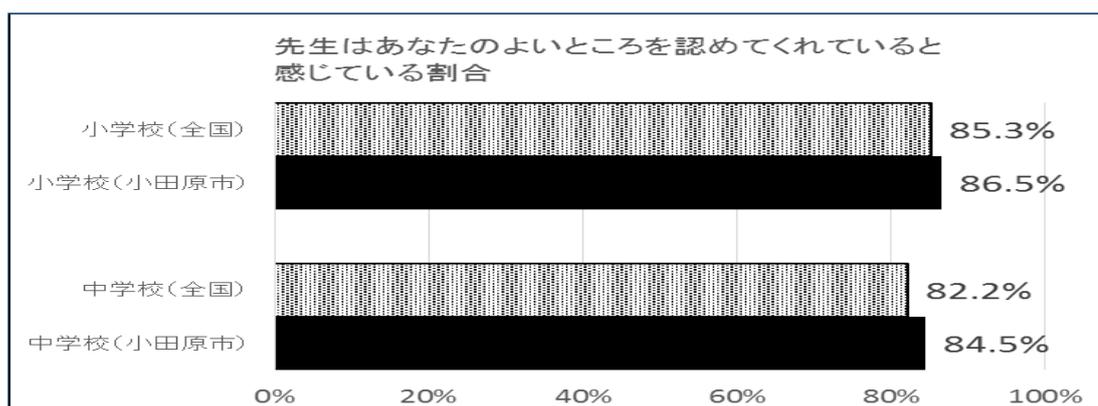
児童生徒質問紙の調査結果と算数A・数学Aの調査結果の相関を見たものである。

※以下に示すクロス分析の各層は、算数A・数学Aにおいて児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により25%刻みで4つの層に分けたものであり、算数A・数学A以外の調査においても同様の傾向がみられた。

【相関1】「先生は自分のよいところを認めてくれている」と学力

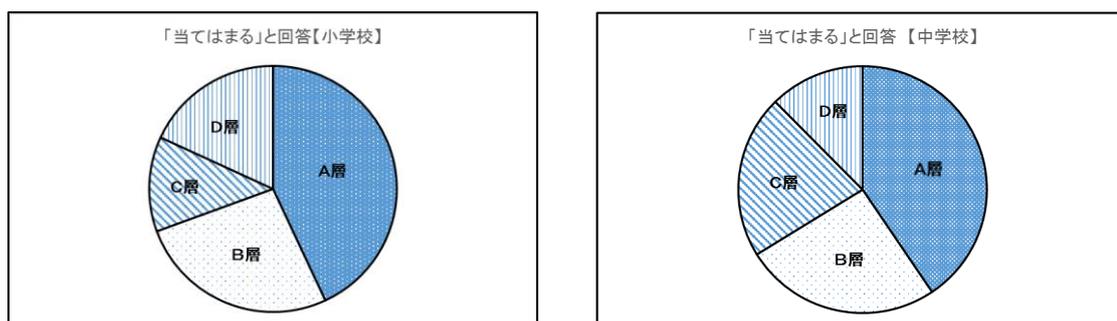


○小学校、中学校ともに「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問で「当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒はA、B層に多い。

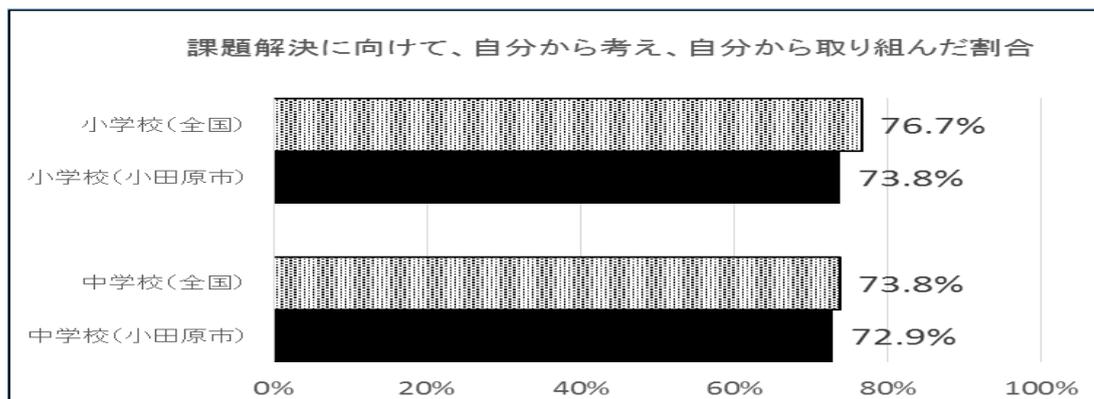


本市では、児童生徒質問紙の「先生はあなたのよいところを認めてくれている」において、肯定的な回答をした割合が小中学校ともに全国平均を超えており、児童生徒と教員の関係はおおむね良好であるといえる。また、児童生徒に対する肯定的な働きかけは、学びに向かう力を育み学力の向上に繋がると考える。今後も教員が児童生徒一人ひとりのもつよさに目を向け、きめ細かな指導に努めていくことが大切である。

【相関2】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と学力

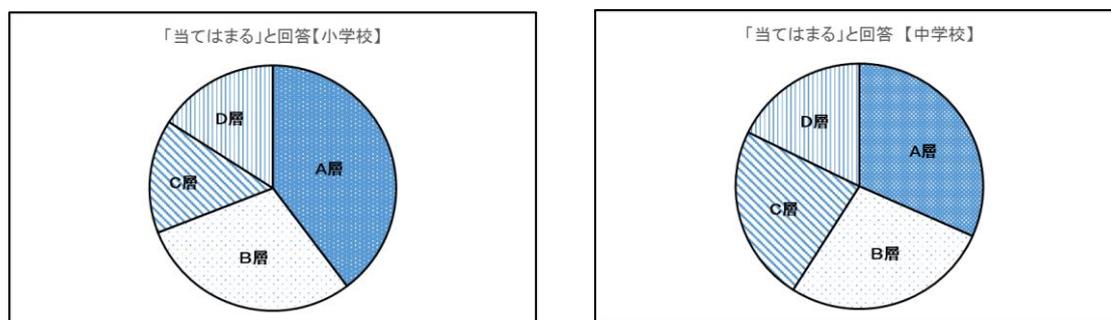


○小学校、中学校ともに「前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という設問で「当てはまる」と肯定的な回答した児童生徒はA、B層に多い。

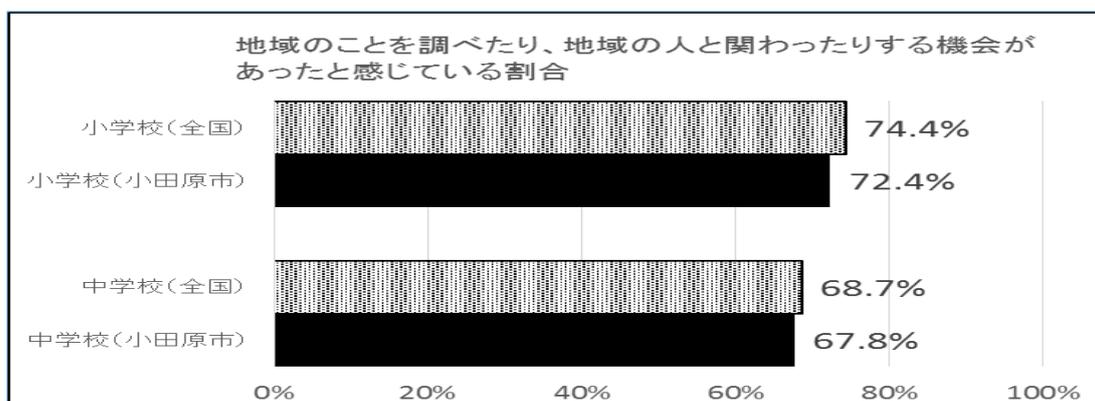


自分の考えをもち、主体的に課題に取り組むことはたいへん重要である。今後も、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒一人ひとりが自ら問いを見出し、その解決に向けて知識や技能を活用し、学びを深めることを大切にされた質の高い授業を目指していくことが大切である。

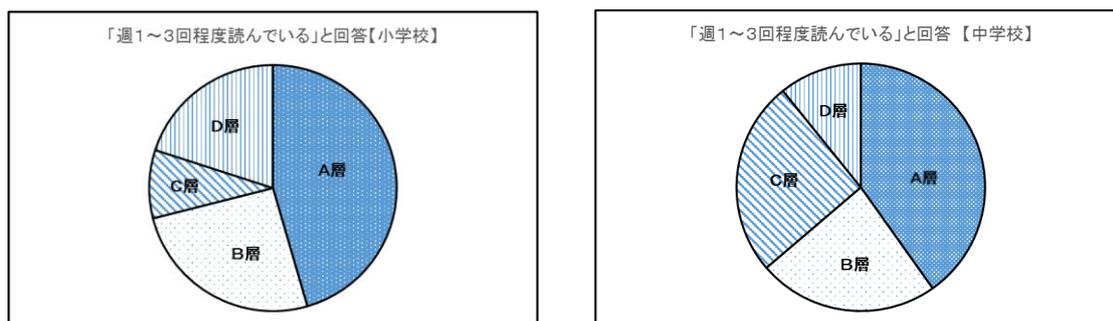
【相関3】「地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」と学力



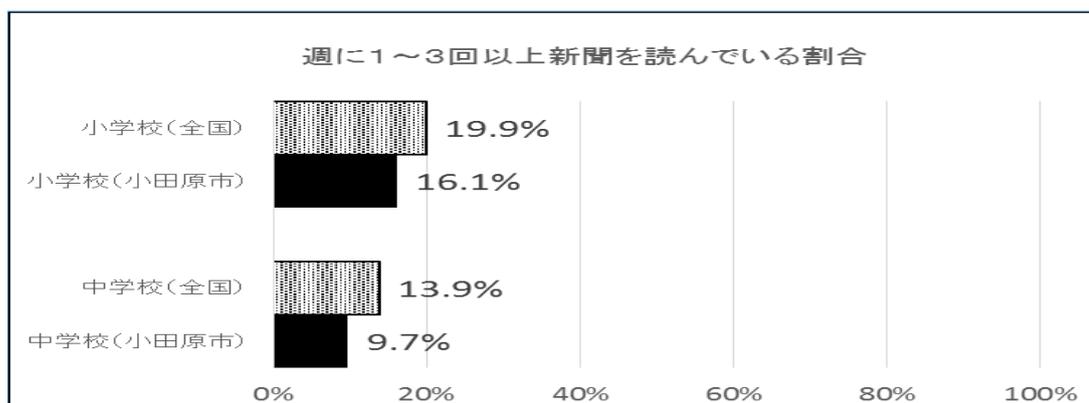
○小学校、中学校ともに「前学年までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」という設問で「当てはまる」と回答した児童生徒はA、B層が多い。



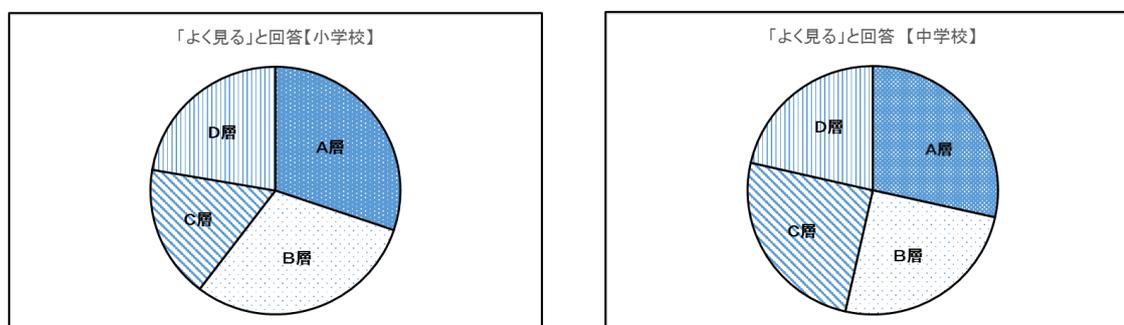
【相関4】「新聞を読んでいること」と学力



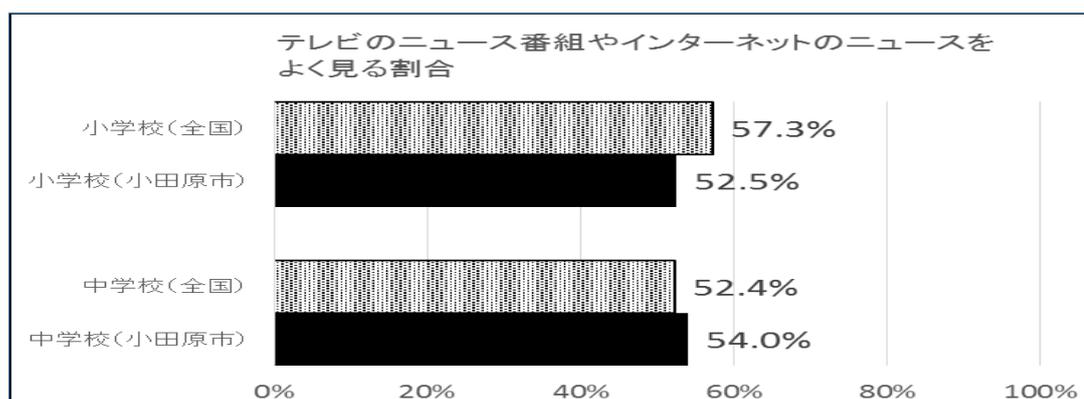
○小学校、中学校ともに「新聞を読んでいますか」という設問で「週1～3回程度読んでいる」と回答した児童生徒はA、B層に多い。



【相関5】「ニュースを見ること」と学力



○小学校、中学校ともに、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」という設問で「よく見る」と回答した児童生徒はA、B層に多い。



社会的事象に対する興味・関心をもったり、地域の人や、もの、ことと繋がったりするなど、地域や社会との関わりと学力には相関が見られる。これからのグローバルな社会で多くの人と関わり活躍していくためには、まずは、身近な地域で様々な人々と主体的に関わりあう経験が必要である。そのためにも、児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域が、それぞれの立場で教育環境を整え、児童生徒の育ちを支えていくことが大切である。



事務担当
教育指導課 瀬戸（由）
電話 33-1730

平成30年度全国学力・学習状況調査結果における小田原市学校教育振興基本計画の成果指標数値

(1) 自ら考え表現する力

指標（全国学力・学習状況調査より）	基準値（平成29年度）	平成30年度数値	目標値（平成34年度）
友達と話し合う時、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができている児童生徒の割合	小学校 83.0% 中学校 88.9%	— —	90%以上
授業で学んだことを、他の学習や生活に生かしている児童生徒の割合	小学校 83.8% 中学校 70.5%	— —	85%以上

(2) 命を大切に作る心

指標（全国学力・学習状況調査より）	基準値（平成29年度）	平成30年度数値	目標値（平成34年度）
自分には、よいところがあると感じている児童生徒の割合	小学校 79.2% 中学校 71.6%	小学校 82.0% 中学校 80.3%	85%以上
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと感じている児童生徒の割合	小学校 96.0% 中学校 91.8%	小学校 95.5% 中学校 95.7%	100%

(3) 健やかな心と体

指標（全国学力・学習状況調査より）	基準値（平成29年度）	平成30年度数値	目標値（平成34年度）
朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校 93.9% 中学校 91.0%	小学校 91.8% 中学校 90.4%	95%以上

(4) ふるさとへの愛

指標（全国学力・学習状況調査より）	基準値（平成29年度）	平成30年度数値	目標値（平成34年度）
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合	小学校 37.8% 中学校 29.8%	小学校 41.5% 中学校 38.3%	50%以上
今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小学校 51.2% 中学校 34.0%	小学校 49.4% 中学校 41.1%	60%以上

(5) 夢への挑戦

指標（全国学力・学習状況調査より）	基準値（平成 29 年度）	平成 30 年度数値	目標値（平成 34 年度）
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある児童生徒の割合	小学校 95.7% 中学校 95.2%	— —	95%以上
将来の夢や目的を持っている児童生徒の割合	小学校 83.4% 中学校 71.8%	小学校 82.2% 中学校 72.5%	90%以上

(6) おだわらっ子の約束

指標（全国学力・学習状況調査より）	基準値（平成 29 年度）	平成 30 年度数値	目標値（平成 34 年度）
毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合	小学校 78.3% 中学校 72.7%	小学校 73.0% 中学校 73.6%	85%以上
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる児童生徒の割合	小学校 94.1% 中学校 95.4%	— —	95%以上
学校のきまりを守っている児童生徒の割合	小学校 92.8% 中学校 92.2%	小学校 87.0% 中学校 93.6%	95%以上

平成30年度教育委員会事務の点検・評価後の状況について
(平成30年10月教育委員会定例会報告分)

資料3

H30.9月末時点

事業名	No	意見	進捗状況	左記進捗状況である理由等
学力向上支援事業	1	少人数指導やチームティーチング実施校(学級)の場合と未実施校(学級)の場合の成果を比較し、少人数指導スタッフの在り方や職員配置への配慮・検討に取り組んでいただきたい。	検討中	学校規模や子供たちの実態が違う中、配置の有無による学力の成果を測ることは困難である。少人数指導スタッフの配置については、県加配を勘案し、配置基準を見直しながら、効果的な配置を検討していきたい。
	2	非常勤講師が教員と同じ専門性の高い情報を共有していただきたい。	完了	配置している市費非常勤講師のほとんどが、過去に正規教員または県費非常勤講師の経験者であり、教科指導経験が豊富である。各学校の授業研究会に参加し、教科の指導法研修に参加できるよう対応している おり、専門性の高い情報も共有できている。
	3	事業の評価や成果を、保護者アンケート、授業アンケート等で結果を示すべき。	対応予定なし	保護者が事業の成果を実感したり、事業を評価したりすることは困難であり、負担をかけてしまうため、現時点では取り組む予定はない。
	4	免許教科外教科教員、教科指導充実非常勤講師の必要性は、中学校の教諭の層が薄くなっているのではないか。	着手中	教員の配置については、教職員定数法に基づくものであり、生徒数が減少し、学級数が減ると配置される教職員の定数も減少し、教職員の層が薄くなっているため、今後も非常勤講師の適正な配置を進めていきたい。
読書活動推進事業	5	学校司書の配置が生徒の学力成果に繋がったことを具体的な数字で記録し、今後の配置につなげるべきではないか。	対応予定なし	学校司書の配置と学力の成果をクロス集計することは不可能である。
	6	学校司書の活動を可視化し、必要性をアピールしてほしい。	着手中	「日報」だけでなく、各学校司書が工夫をして、図書館だよりを出すなど、学校司書の取組を可視化する取り組みは進んでいる。
	7	学校司書と教員とが連携し、双方の業務の充実や効率化を図れるのではないか。	着手中	直接雇用したことにより、学校司書と教員の連携は深まっている。このことにより、子供への読書相談や学習支援が充実している。
	8	学校司書と教員との有機的な連携を図るための研修の予算化を望む。	完了	講師を招聘して、学校司書と教員が共に対象となる研修会を開催して おり、有機的な連携が図られている。
	9	学校図書館と市立図書館との連携協力体制の整備を望む。(蔵書の貸し借りのシステム化も含む)	検討中	図書館の貸し借りのためのシステムを導入するためには、相当な費用を要するため、今後研究していきたい。
	10	学校司書の研修会に、学校教員や図書ボランティア等の参加も可能とするなど検討されたい。	検討中	研修会の参加対象について、今後検討していきたい。
	11	図書館運営に児童生徒も参加できるようにすることも重要。	完了	学校図書館の運営では、児童生徒会活動の一環として、児童生徒も参加している。

※意見は、各委員の意見の要旨を事務局で集約・編集したもの。
※進捗状況は、「完了」「着手中」「未着手」「検討中」「対応予定なし」から選択。

事業名	No	意見	進捗状況	左記進捗状況である理由等
向体力事・業運動能力	12	今後は中学生が小学生を指導するなど、児童生徒が講師役を担う人材育成・生涯教育の観点も加味し、事業の維持発展を望む。	検討中	現在、小学校体育大会の陸上種目の練習において、一部の小学校を対象に中学生が小学生に指導する機会を設けるなど、小中学校の交流は進んでいる。各中学校区の交流として、こうした機会が増えることは良いことであるので、働きかけていきたい。
	13	派遣した学校としなかった学校との比較や、過去に派遣された学校でのノウハウの引継ぎがされているのか検証し、今後に活かしていくことが必要。	着手中	体力・運動能力向上指導員の派遣は、平成32年度までの事業であり、教員がそのノウハウを生かして、今後の学校の取組としていくことができるよう対応しているところである。
	14	アスリートの派遣を早期に全小中学校でできるようにし、在学中に一度はトップアスリートと触れ合う機会を持てることを望む。	検討中	子供がスポーツや運動に関心を持つことや、将来の夢につながることは重要な事であり、アスリートの派遣から学ぶことはその効果が高いと考えているため、推進していきたい。
情報教育の推進	15	メディアリテラシー、モラルリテラシー育成の観点から「情報教育研修会」を予算化し、恒常的に開催する必要がある。	対応予定なし	教職員の研修については、県、市、学校がそれぞれ必要性に基づき、実施しており、市としては現時点で予算化し、恒常的な開催は考えていない。
	16	携帯・スマートフォン使用頻度の高さから小中学生がトラブルや危険にさらされている現状にあることを再認識し、市教育委員会として「メディアリテラシーに関する手引書」の作成に取り組む必要がある。	対応予定なし	携帯やスマートフォンのトラブルや危険に関する資料は、様々な機関から交付されているため、現時点で、教育委員会として手引書を作成する考えはない。
	17	正しい情報の選択やSNSに潜む危険性等を子供たちに十分理解させることが重要で、学校としても保護者等と連携をとって進めていく必要がある。	着手中	小中学校の発達の段階において、情報教育や道徳教育を通じて、取り組んでいる。

※意見は、各委員の意見の要旨を事務局で集約・編集したもの。
 ※進捗状況は、「完了」「着手中」「未着手」「検討中」「対応予定なし」から選択。

事業名	No	意見	進捗状況	左記進捗状況である理由等
家庭学習の推進	18	「おだわらっ子ドリル」のねらいを、教員が蓄積してきた学習のつまづきの改善を共有するとともに、つまづきやすい問題等に関するアドバイスを入れ込むなどし、基礎的な勉強がわからない子供を減らす目的で、予算化し推進していただきたい。	着手中	現在、教育研究所共同研究（平成30年4月～平成32年3月）で、作成のための研究を進めているところであり、指摘事項を参考にしていきたい。
	19	「おだわらっ子ドリル」の必要性や費用対効果、活用方法を十分に検討した上で、作成を継続するか市販のドリルの活用を選択すべき。	検討中	現在、教育研究所共同研究（平成30年4月～平成32年3月）で、作成のための研究を進めているところであり、指摘事項を参考にしていきたい。
	20	「家庭学習の手引き」を、①作成趣旨と活用方法を十分に理解してもらえ、②基礎学力の育成と発展的学習を分けて考え、家庭への対応も分けて行う、③基礎的な学習及び発展学習と自らの興味関心から探求する学習とを明確に区分する、といった視点で作成できないか。	未着手	「家庭学習の手引き」は、各小学校が実態に応じて工夫をしながら作成している。現時点で小田原市として手引きを作成する考えはない。指摘事項については、機会をとらえながら、指導していきたい。
公立幼稚園事業	21	私立幼稚園との連携強化体制づくりを積極的に推進していく必要がある。	着手中	教育部と子ども青少年部で就学前教育・保育のあり方基本方針を作成中であり、その中で連携体制について協議している。
	22	公立幼稚園での取組の成果等を、私立幼稚園・保育所へ情報提供し、共有するシステムの構築が必要である。	着手中	教育部と子ども青少年部で就学前教育・保育のあり方基本方針を作成中であり、その中で連携体制について協議している。
	23	延長保育の拡充をさらに進める必要がある。	未着手	延長保育については、現在検討している認定こども園化に含めて検討していく。
	24	認定こども園化への移行について、幼稚園型か連携型かの方向性を打ち出す必要がある。	着手中	教育部と子ども青少年部で就学前教育・保育のあり方基本方針を作成中であり、その中で認定こども園化について協議している。

※意見は、各委員の意見の要旨を事務局で集約・編集したもの。
 ※進捗状況は、「完了」「着手中」「未着手」「検討中」「対応予定なし」から選択。

事業名	No	意見	進捗状況	左記進捗状況である理由等
支援教育事業	25	個別支援員の通常級への配置を充実するため、さらなる増員措置に努められたい。	着手中	学校のニーズをとらえ、平成31年度に増員するための予算を要求している。
	26	通常級の児童生徒への障がい理解などについて、影響の大きい個別支援員に研修機会がより多くあれば良い。	着手中	個別支援員の資質向上を図ることは重要である。現在、年2回研修会を実施しており、その内容を充実していきたい。
	27	インクルーシブな教育環境づくりのため、地域全体の意識喚起が必要。	未着手	保護者や地域住民の理解が高まることは大切なことであると認識しており、今後検討していきたい。
	28	児童生徒の自立に向けて、専門家と支援員が連携し計画的に取り組むことが必要。	着手中	ご指摘のとおり、実施しているところである。
学校運営協議会事業	29	学校の活性化と地域の活性化を両立していただきたい。	検討中	地域コーディネーターが地域コミュニティ組織及びその事務局と連携することによって、学校の活性化と地域の活性化が図られるか検証していきたい。
	30	教職員の多忙化解消につながる運営を期待したい。	検討中	学校運営協議会の事務局を地域コーディネーターが担うことで、教職員の負担につながるかを検証していきたい。
	31	運営協議会のメンバーに、地域団体だけでなく他の活動グループや市民委員を含むと良い。	検討中	学校運営協議会委員は、校長の推薦によるものとなるが、今後研究していきたい。
	32	各協議会同士の情報交換や、モデル的活動の共有などが必要である。	着手中	小学校全校に学校運営協議会が設置される平成31年度に、連絡協議会を計画している。
	33	地域主体での運営の定着、地域住民への認知度の向上、協議結果の周知が求められる。	着手中	これまでに、市民向け「市民につたえようおだわらの教育」の発表や、広報への掲載、また指導主事が学校へ出向き、コミュニティスクールの概要説明をしてきた。また、学校も学校運営協議会の設置に向け、学校だよりなどで周知し、認知度が高まるよう 取り組んでいる 。
	34	市外研修視察等のための予算措置を図るべき。	未着手	学校運営協議会の立ち上げに際し、各校の学校運営協議会委員の代表者には、国が主催するフォーラムに参加するための予算措置はしてきた。現段階では、視察するような先進的な自治体もないため、予算措置は考えていない。

※意見は、各委員の意見の要旨を事務局で集約・編集したもの。

※進捗状況は、「完了」「着手中」「未着手」「検討中」「対応予定なし」から選択。

事業名	No	意見	進捗状況	左記進捗状況である理由等
（学 小 ・ 校 施 設 維 持 ・ 中 ・ 幼 ） 管 理 事 業	35	学校施設を地域の高齢者や障がい者ほかすべての人が利用できるよう、「みんなのトイレ」の設置が望ましい。	着手中	現在、小中学校のトイレ全面改修の際には、各階に1か所ずつ「みんなのトイレ」を設置している。今後も継続していく方針である。
	36	学校施設の地域住民への開放に伴うリスクの洗い出しと検討、複合化・多目的化に向けたプラン策定には特にソフト面から具体的な検討を加えるべき。	検討中	現在、早川小学校を早川まちづくり委員会への事務局として開放しており、玄関を生徒と区別したり、事務局の部屋の鍵の管理方法を定める等、セキュリティに配慮しているが、地域開放については、セキュリティをどのように確保していくかが課題である。平成32年度末までに学校施設長寿命化計画を策定するよう文部科学省から示されており、その中で複合化・多目的化の一つとして検討していきたい。
	37	危険を伴わない軽微な修繕は、教師、PTA、市教育委員会、自治会などが協力して一覧を作成し、地域のマンパワーを活用するといった工夫があっても良い。	完了	清掃作業や低木の伐採など、地域のコミュニティで対応できることもある。地域の実情に応じ、個々、柔軟に対応をしていくこととしている。
	38	校内の樹木の管理を徹底していただきたい。	検討中	全小中学校の危険な樹木を判断し、平成31年度から5か年計画で全小中学校の樹木を剪定できるよう予算要求を行っていく予定である。
	39	ブロック塀の未対応部分についても急ぎ検討をお願いしたい。	着手中	13校・園の27箇所のブロック塀の安全性に問題ありと判断し、撤去することとした。前羽小学校以外の箇所については、8月25日（土）までに撤去済みである。前羽小学校のブロック塀はJRの鉄道敷地の近接していることから、JRと協議を進めていたが、10月12日に工事が承諾されたので、現在、ブロックの塀撤去及びフェンス新設の準備を進めているところである。

※意見は、各委員の意見の要旨を事務局で集約・編集したものの。

※進捗状況は、「完了」「着手中」「未着手」「検討中」「対応予定なし」から選択。

資料 4

平成30年度上半期寄付採納状況について

物品

	寄 付 者	寄 付 物 品	見 積 額	使 途 先
1	匿名	芦子小学校トイレ修繕	1,000,000 円	芦子小学校備品として
2	小田原市中町 和田 雄次	北条氏康朱印状(永禄10年)6月24日ほか4件(全5点)	1,200,000 円	郷土文化館の展示・研究資料として
3	匿名	農業関係資料ほか11件(全46点)	不明	郷土文化館の展示・研究資料として
4	匿名	握り寿司押し型ほか6件(全21点)	不明	郷土文化館の展示・研究資料として
5	金子 八重子	唐箕ほか3点	不明	郷土文化館の展示・研究資料として
6	小田原市成田 株式会社 杉三製作所 杉崎 浩	トンボ(整地用具)	不明	豊川小学校の備品として
7	小田原市中里 横田 八郎	横田七郎作品及び関係資料 (6件532件、6件1式)	30,296,000 円	郷土文化館の展示・研究資料として
8	匿名	写真(アルバム23点) 2,791点 撮影者 岡部 忠夫	不明	郷土文化館の展示・研究資料として
9	小田原市本町 小田原白梅ライオンズクラブ 会長 大津 清巳	サッカーボールほか(159点)	約 32,000 円	小学校17校の備品として
10	匿名	地金(金の延べ棒1kg)	5,000,000 円 相当	図書行政全般(星崎定五郎像移設費等)として

11	小田原市寿町 さがみ信用金庫寿町支店信和 会 会長 大谷 宏	児童用図書	100,000 円	町田小学校の備 品として
12	大和市下鶴間 高木 知己	浅田兄弟敵討一件（文政7年6月） ほか3件（全4点）	65,000 円	郷土文化館の展 示・研究資料とし て
13	東京都世田谷区代沢 寺島 正芳	古書ほか18件（全28点）	9,840 円	郷土文化館の展 示・研究資料とし て
14	匿名	軒丸瓦（奈良時代） 1件3点	不明	郷土文化館の展 示・研究資料とし て
15	小田原市本町 三の丸小学校同窓会 会長 松下 弘	ワイヤレスアンプほか2点	245,258 円	三の丸小学校の 備品・設備として
16	小田原市久野 井上 喜司	壁画	不明	白山中学校の備 品として
17	福島県郡山市片平町字新蟻 塚 大石 尚	狩野探溟作品ほか35件44点、2件 一式	800,000 円	郷土文化館の展 示・研究資料とし て
18	小田原市国府津 小田原市立国府津小学校PT A 会長 杉山 大輔	回転式黒板	47,300 円	国府津小学校の 備品として
19	小田原市曾我岸 公益財団法人 積善会 理事長 長谷川 隆三	オリンパス実習・研究用生物顕微鏡 ほか2件	約 900,000 円	下曾我小学校の 備品として
20	小田原市小台 報徳小学校PTA	らいとどっじボール2号 ほか2件 （全19点）	79,900 円	報徳小学校の備 品として
21	匿名	小田原市立富水小学校 校旗 額縁	1,087,128 円	富水小学校の備 品として
22	小田原市穴部新田 渡邊 謙一	エルモ社 モバイル書画カメラ MO-1 2点	100,000 円	足柄小学校の備 品として

23	小田原市扇町 さがみ信用金庫扇町支店 信和会 会長 本多 純二	ゼンオン 教育用カホン	100,000 円	足柄小学校の備品として
24	匿名	土器・陶磁器ほか2件 (全48点)	不明	郷土文化館の展示・研究資料として
25	匿名	学校図書 (554冊)	1,000,000 円	桜井小学校の備品として
26	上曾我祭典委員会	上曾我祭典関係資料7点	不明	郷土文化館の展示・研究資料として
27	匿名	今川氏輝判物ほか12件 (全671点)	3,300,000 円	郷土文化館の展示・研究資料として
28	小田原市城内 おだわら学習帳配布実行委員会	おだわら学習帳ほか1件 (全7,000冊)	839,050 円	市内小学校 2・3・4 年生(学習帳) 4 歳児および市内小学校 1 年生(ぬりえ) 学習用として
29	小田原市桑原 特定非営利活動法人 防災総合ペット育成協会 理事長 中川 都子	絵本「君とずっと一緒にいたいから」 31冊	40,176 円	市立小学校及び幼稚園の学習用として
30	中村 圭一	横井半三郎関係資料(ロシア滞在時の調査報告書等)8冊	不明	郷土文化館の展示・研究資料として
31	平塚市長持 伊比 輝治	写真集「蓮池の仲間たち あまがえる」43冊	69,660 円	市立小中学校、幼稚園及びかもめ図書館の学習用、閲覧用として
32	小田原市南鴨宮 古川 達高	丸太遊具	912,168 円	新玉小学校の備品として

現金

	寄 付 者	寄付金額	寄付目的	使 途 先
1	北海道小樽市築港 青木 一雄	2,000,000 円	三の丸小学校の備品整備のため	三の丸小学校 備品購入費用と して
2	小田原市鴨宮 さがみ信用金庫信和会 会長 守屋 善男	150,000 円	鴨宮中学校、千代中学校、酒匂 中学校の図書充実のため	鴨宮中学校ほ か2校の図書購 入費として
3	匿名	50,000 円	下中小学校の図書充実のため	下中小学校の 図書購入費とし て
4	匿名	400,000 円	酒匂中学校、富士見小学校、下 府中小学校、酒匂小学校の図書 充実のため	酒匂中学校ほ か3校の図書購 入費として

演劇無料提供

	寄 付 者	公 演 名	寄付目的	備 考
1	横浜市青葉区あざみ野 四季株式会社 代表取締役社長 吉田 智誉樹	「こころの劇場」 劇団四季ミュー ジカル 『王様の耳はロ バの耳』	青少年の情操教育のため	市立小学校に 通う小学4年 生等に対する 演劇鑑賞の提 供

事務担当
教育総務課 総務係
電話：33-1671

資料 5

平成30年度上半期教育委員会職員の公務・通勤災害の状況について

災害発生期間 平成30年3月23日～平成30年9月30日

種 別	所 属 名	傷 病 名	災 害 発 生 状 況
通勤	教育指導課 専門監	左頬骨骨折 左上顎骨骨折 左眼窩底骨折 高エネルギー外傷 肋骨骨折	【受傷日時 平成30年3月23日 午前11時30分頃】 時間休を取得し、帰宅途中にバイク と接触した。

※通勤災害申請中であるが、被災職員は4月9日から職場復帰している。

事務担当
教育総務課 総務係
電話：33-1671